



平成28年1月7日

各位

会社名 株式会社ダイセキ
代表者名 代表取締役社長 柱 秀貴
(コード番号 9793 東証・名証第一部)
問合せ先 企画管理本部長 片瀬 秀樹
(電話番号 052-611-6322)

特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年1月7日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、平成27年4月7日の平成27年2月期決算発表時に開示した平成28年2月期（平成27年3月1日～平成28年2月29日）通期の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。また、特別損失を計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。

1. 業績予想数値の修正

① 当期の連結業績予想数値の修正（平成27年3月1日～平成28年2月29日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結 当期純利益	1株当たり連結 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 47,200	百万円 7,780	百万円 7,860	百万円 4,320	円 銭 95.92
今回修正予想（B）	50,200	7,780	7,860	3,850	85.48
増減額（B－A）	3,000	－	－	△470	
増減率（％）	6.3%	－%	－%	△10.8%	
（参考）前期連結実績 （平成27年2月期）	45,738	7,302	7,436	4,035	89.60

② 当期の個別業績予想数値の修正（平成27年3月1日～平成28年2月29日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 27,711	百万円 6,902	百万円 4,363	円 銭 96.87
今回修正予想（B）	26,091	6,319	2,737	60.77
増減額（B－A）	△1,620	△583	△1,626	
増減率（％）	△5.8%	△8.4%	△37.2%	
（参考）前期実績 （平成27年2月期）	26,459	6,625	4,170	92.58



2. 修正の理由

① 連結業績予想

当社グループの今年度は、前年度後半から急落した原油や金属といった資源価格が、先安観が払拭されないままに下落傾向が続いたことにより、当社グループが生産するリサイクル燃料や金属の価格も下落し、収益環境は厳しい状況が続きました。なかでも、鉛の再生事業を行う株式会社ダイセキMCRにおきましては、新工場の本格稼働が、当初予定より1年強遅れの平成27年7月から始まり、徐々に生産数量を上げてはおりますが、計画数量には満たず、また鉛価格も下落したため、計画対比での赤字幅が広がる結果となりました。

一方、株式会社ダイセキ環境ソリューションが手掛ける土壌汚染の調査・分析・処理事業は、前年度に引続き、不動産取引や建設需要が拡大することにより、受注件数を順調に伸ばし、売上・利益とも大きく計画を上回り、ともに過去最高を計上する見込みとなり、他部門の不振を補う状況が続いております。ただし、当期連結純利益は、少数株主利益の影響により、当初計画数値を下回ることになります。以上を鑑み、連結業績予想の連結売上高は上方修正、連結当期純利益は下方修正いたします。

② 個別業績予想

当社の中核事業である工場廃液を主体とした産業廃棄物中間処理業におきましては、原油価格の下落によるリサイクル燃料販売価格の下落と、製造業の国内生産不振による産業廃棄物処理受託量の伸び悩みにより、売上・利益ともに計画を下回って推移してまいりました。また、当社が保有する関係会社株式(株式会社ダイセキMCR株式)の実質価額が、上記2.「修正の理由 ①連結業績予想」及び所有土地の評価額下落により、著しく低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき関係会社株式評価損2,134百万円を特別損失に計上いたしました。これらにより、個別の業績予想は売上高、経常利益、当期純利益を下方修正いたします。なお、関係会社株式評価損は、連結決算においては消去されるため、連結損益への影響はありません。

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

3. 特別損失の計上

上記2.「修正の理由 ②個別業績予想」に記載した理由により、当社が保有する関係会社株式(株式会社ダイセキMCR株式)の実質価額が著しく低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき関係会社株式評価損2,134百万円を特別損失に計上いたしました。なお、関係会社株式評価損は、連結決算においては消去されるため、連結損益への影響はありません。

以 上